1　第2号住居跡

2　溝跡全景

3　第5号溝跡

4　第6号溝跡

5　第10号溝跡

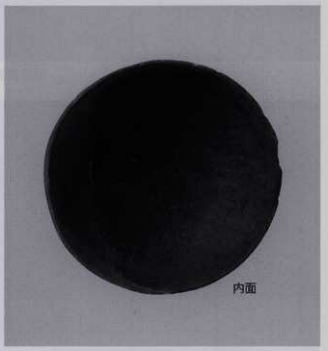
1　第１号住居跡（第264図３）

2　第１号住居跡（第264図８）

3　第１号住居跡（第264図12）

4　第２号住居跡（第267図７）

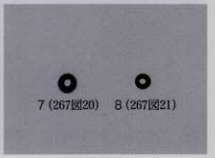
3　第１号住居跡（第264図12）



4　第２号住居跡（第267図７）

5　第２号住居跡（第267図２）

6　第２号住居跡（第267図３）



7　第２号住居跡　臼玉

1　第１号住居跡（第264図13）

2　第１号住居跡（第264図19）

3　第１号住居跡（第264図20）

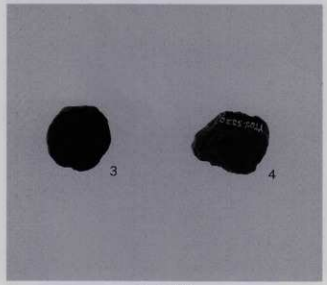
4　第２号住居跡（第267図８）

5　第２号住居跡（第267図17）

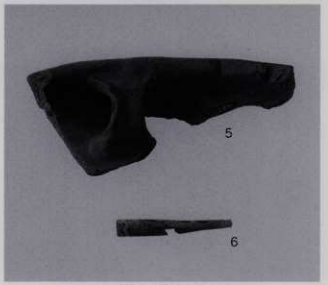
6　第６号溝跡（第273図24）

1　第６号溝跡（第273図４）

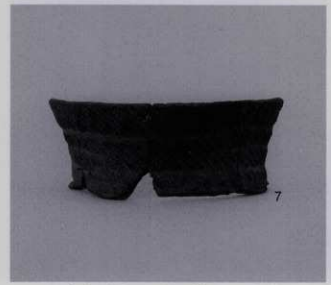
2　第６号溝跡（第273図５）



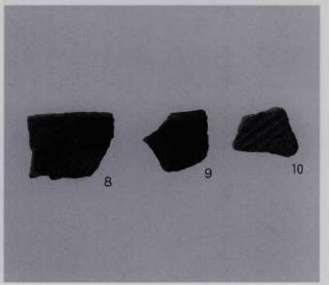
3　土製品



4　第５号溝跡出土遺物



5　古墳時代初頭の遺物（第279図１）(1)



6　古墳時代初頭の遺物（2）

報告書抄録

ふりがな	なつめ／なつめにし／やとうじ
書名	夏目／夏目西／弥藤次
副書名	県道藤岡本庄線建設事業関係埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書
シリーズ番号	第346集
編著者名	大谷 徹
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1 TEL 0493-39-3955
発行年月日	西暦2007（平成19）年11月30日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
夏目遺跡（なつめいせき）	埼玉県本庄市（さいたまけんほんじょうし）大字西富田（おおあざにしとみだ）732番地1他（ばんち ほか） 西富田（にしとみだ）736番地（ばんち）他（ほか） 西富田（にしとみだ）771-2番地他（ばんち ほか）	11382	091	36°13′54″ （世界測地系）	139°10′04″ （世界測地系）	19950710～19960229 19970401～19970630 20000901～20001130	1,670 1,050 704	道路建設
夏目西遺跡（なつめにしいせき）	埼玉県本庄市（さいたまけんほんじょうし）大字西富田（おおあざにしとみだ）762番地他（ばんち ほか）	11382	092	36°13′56″ （世界測地系）	139°09′59″ （世界測地系）	19950710～19960229	1,830	
弥藤次遺跡（やとうじいせき）	埼玉県本庄市（さいたまけんほんじょうし）大字西富田（おおあざにしとみだ）962番地1他（ばんち ほか）	11382	090	36°13′59″ （世界測地系）	139°09′55″ （世界測地系）	19950710～19960229	500	

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
夏目遺跡	集落跡	弥生時代	土坑　1基	弥生土器　石器	5世紀中頃のカマド導入期の住居跡の調査。 5世紀末の井戸跡から埋井祭祀に伴う土器群が出土。 古墳時代の大溝跡とそれに取り付く道路跡の調査。
		古墳時代	竪穴住居跡　25軒 道路跡　4条 大溝跡　1条 井戸跡　1基 土坑　1基	土師器　須恵器　炉支脚 転用羽口　玉類（滑石製 白玉・土製小玉）　砥石 土錘　鉄鎌　編物石	
		平安時代	竪穴住居跡　2軒	土師器　須恵器	
		中・近世	掘立柱建物跡1棟 柱穴列　5条 溝跡　23条 井戸跡　1基 土坑　64基 ピット　398基	陶器　瓦　砥石　椀形滓	
夏目西遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡　19軒	土師器　須恵器　紡錘車	5世紀後半の大型住居から畿内地方の影響を受けた布留式系甕が出土。 5世紀中頃の玉作工房跡1軒を調査。
		奈良時代	竪穴住居跡　2軒 掘立柱建物跡3棟 土坑　1基	土師器　須恵器	
		中・近世	掘立柱建物跡1棟 柱穴列　4条 溝跡　6条 土坑　44基 ピット　115基	陶器	
弥藤次遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡　2軒 溝跡　1条	土師器　玉類　加工円板	遺跡群の西限を画する溝跡を検出。
		中・近世	溝跡　9条 土坑　12基 ピット　33基	陶器　煙管	

要　約

夏目遺跡・夏目西遺跡・弥藤次遺跡は、埼玉県北西部の本庄市西富田に所在する古墳時代中期から奈良・平安時代に営まれた集落跡である。JR高崎線本庄駅の南西約2kmの本庄台地上に位置し、県重要遺跡に選定されている西富田遺跡群内に所在する。西富田遺跡群周辺は、関東地方においていち早くカマドが導入された地域として知られている。

今回の発掘調査では、夏目遺跡で27軒、夏目西遺跡で21軒、弥藤次遺跡で2軒の計50軒の竪穴住居跡が検出された。その内訳は古墳時代中期後半から古墳時代後期前半の住居跡が28軒と大部分を占め、古墳時代中期後半に成立した大規模集落といえる。このうち中期の住居跡には、炉の住居とカマドをもつ住居が混在したあり方を示し、炉からカマドへの移行期の特徴をもつ初期カマドの実態が明らかにされた。さらに古墳時代後期後半以降も住居跡数を大幅に減少しながら平安時代まで集落が継続して営まれていることが判明した。また、夏目遺跡では類例の少ない古墳時代後期初頭の大型井戸跡と、ほぼ同時期の大溝とそれに取り付く道路跡も検出されており、より具体的な集落景観が復元できた。

出土遺物では、夏目西遺跡の大型住居の第14号住居跡から布留式系甕が4個体まとまって出土したことが特筆される。西富田遺跡群周辺のカマド導入期集落からは在地産と考えられる布留式系甕が集中して認められることが以前より注目されてきたが、今回の発見によってその特殊性がより鮮明となった。また、第1号住居跡からは滑石製白玉の未成品が70点以上出土しており、玉作工房跡の可能性が高い。カマドの構築土の中に白玉等を埋める祭祀行為についてこれまでの調査において留意されていたが、集落内における石製模造品生産のあり方や需給関係などについて重要な問題を提起するであろう。

この他に夏目遺跡第23号住居跡からは高坏の脚部を再利用した転用羽口1点と中空の炉支脚3個体が出土している。これらが直接的に鍛冶工房の存在を示すものではないが、過去の調査において大量の鉄滓や高坏転用羽口を出土した住居跡が調査されていることから、集落内部における鉄器生産を十分に予測させるとともに、手工業生産を内包する拠点集落の一面をのぞかせている。

こうした5世紀後半における集落の急激な展開の背景には、在地首長層の主導による大規模な地域開発が推し進められ、鉄や馬匹生産などの新技術の導入を図るために畿内地域の渡来系技術者を積極的に受け入れたことを物語っているのであろう。

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
夏目遺跡	集落跡	弥生時代	土坑　1基	弥生土器　石器	5世紀中頃のカマド導入期の住居跡の調査。 5世紀末の井戸跡から埋井祭祀に伴う土器群が出土。 古墳時代の大溝跡とそれに取り付く道路跡の調査。
		古墳時代	竪穴住居跡　25軒 道路跡　4条 大溝跡　1条 井戸跡　1基 土坑　1基	土師器　須恵器　炉支脚 転用羽口　玉類（滑石製 白玉・土製小玉）　砥石 土錘　鉄鏃　編物石	
		平安時代	竪穴住居跡　2軒	土師器　須恵器	
		中・近世	掘立柱建物跡1棟 柱穴列　5条 溝跡　23条 井戸跡　1基 土坑　64基 ピット　398基	陶器　瓦　砥石　椀形滓	
夏目西遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡　19軒	土師器　須恵器　紡錘車	5世紀後半の大型住居から畿内地方の影響を受けた布留式系甕が出土。 5世紀中頃の玉作工房跡1軒を調査。
		奈良時代	竪穴住居跡　2軒 掘立柱建物跡3棟 土坑　1基	土師器　須恵器	
		中・近世	掘立柱建物跡1棟 柱穴列　4条 溝跡　6条 土坑　44基 ピット　115基	陶器	
弥藤次遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡　2軒 溝跡　1条	土師器　玉類　加工円板	遺跡群の西限を画する溝跡を検出。
		中・近世	溝跡　9条 土坑　12基 ピット　33基	陶器　煙管	

要　約

夏目遺跡・夏目西遺跡・弥藤次遺跡は、埼玉県北西部の本庄市西富田に所在する古墳時代中期から奈良・平安時代に営まれた集落跡である。JR高崎線本庄駅の南西約2kmの本庄台地上に位置し、県重要遺跡に選定されている西富田遺跡群内に所在する。西富田遺跡群周辺は、関東地方においていち早くカマドが導入された地域として知られている。

今回の発掘調査では、夏目遺跡で27軒、夏目西遺跡で21軒、弥藤次遺跡で2軒の計50軒の竪穴住居跡が検出された。その内訳は古墳時代中期後半から古墳時代後期前半の住居跡が28軒と大部分を占め、古墳時代中期後半に成立した大規模集落といえる。このうち中期の住居跡には、炉の住居とカマドをもつ住居が混在したあり方を示し、炉からカマドへの移行期の特徴をもつ初期カマドの実態が明らかにされた。さらに古墳時代後期後半以降も住居跡数を大幅に減少しながら平安時代まで集落が継続して営まれていることが判明した。また、夏目遺跡では類例の少ない古墳時代後期初頭の大型井戸跡と、ほぼ同時期の大溝とそれに取り付く道路跡も検出されており、より具体的な集落景観が復元できた。

出土遺物では、夏目西遺跡の大型住居の第14号住居跡から布留式系甕が4個体まとまって出土したことが特筆される。西富田遺跡群周辺のカマド導入期集落からは在地産と考えられる布留式系甕が集中して認められることが以前より注目されてきたが、今回の発見によってその特殊性がより鮮明となった。また、第1号住居跡からは滑石製臼玉の未成品が70点以上出土しており、玉作工房跡の可能性が高い。カマドの構築土の中に臼玉等を埋める祭祀行為についてこれまでの調査において留意されていたが、集落内における石製模造品生産のあり方や需給関係などについて重要な問題を提起するであろう。

この他に夏目遺跡第23号住居跡からは高坏の脚部を再利用した転用羽口1点と中空の炉支脚3個体が出土している。これらが直接的に鍛冶工房の存在を示すものではないが、過去の調査において大量の鉄滓や高坏転用羽口を出土した住居跡が調査されていることから、集落内部における鉄器生産を十分に予測させるとともに、手工業生産を内包する拠点集落の一面をのぞかせている。

こうした5世紀後半における集落の急激な展開の背景には、在地首長層の主導による大規模な地域開発が推し進められ、鉄や馬匹生産などの新技術の導入を図るために畿内地域の渡来系技術者を積極的に受け入れたことを物語っているのであろう。

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第346集

夏目／夏目西／弥藤次

県道藤岡本庄線建設事業関係埋蔵文化財発掘調査報告

平成19年11月20日　印刷
平成19年11月30日　発行

発行／財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
〒369－0108　熊谷市船木台4丁目4番地1
電話　0493－39－3955
http://www.saimaibun.or.jp

印刷／朝日印刷工業株式会社